

日韓異形・異義漢語から同形・同義漢語への変化

—近代以降の日本製漢語を中心に—

張 元哉

1 はじめに

日本と韓国にはともに古くから中国の漢字・漢語が入り、それらはそれぞれ各言語に定着し、使われてきた。近代になると西洋文明を受け入れた日本は新概念・新文物に対する訳語を作り、韓国・中国に輸出した。特に韓国には多量の日本製漢語が入ることになり、現代韓国語に少なからず影響を与えた。その結果、現代日韓の同形漢語が多くなった¹⁾。

このような近代以降の交流によって日韓言語の語彙が接触するようになり、二言語の語彙における競合が起こった。日本製漢語が韓国語に入り始めた時期（19世紀末）に、日本製漢語(意味)と韓国の在来語形(意味)²⁾においてゆれが見られた結果、一方が消滅し、一方が生存するという経緯を経て、現代語に至っている。

本稿は、このような近代日韓語彙交流の事情に焦点を当てて、韓国に日本製漢語が入ることによって、近代において日韓異形・異義であった語が、同形・同義語へと変化した様子について考察する。

2 日本製漢語による変化

1) 語形の変化

日本製漢語には A) 新概念・新文物を表すために新しく造った訳語がある。当然であるが、韓国語においても日本製漢語が入る以前は存在していなかった語である。B) その一方で日本製漢語が、入る以前にも韓国語なりに、もしくは中国語から借用し、もの・ことを表現していた語もある。

A) 新しく造語した訳語が入った例として多くをあげることが出来る。日本製漢語の多くはこの類であろう。次はその一例である。

경무청과 군부에서 불가불 불끄는 기계를 속히 작만하는거시 죠홀듯 하더라(警務署と軍部では火を消す機械をすぐ用意する方がよいだろう。)『独立新聞 5/26』

불 끄는 새규칙과 우물을 깨긋시 치는 규칙을 하엿다더라(火を消す、新しい規則と井

戸をきれいにする規則を制定したという)『独立新聞 6/2』

() は筆者訳、以下同

これらは、現代語でいえば、「消火器・消防車」「消防法」などと言うところを韓国の固有語で説明している。当時日本製漢語が入っていないか、まだ定着していなかったためである。当時、もの・ことがなかったものは、このように日本製漢語が定着する前は長く説明するしかなかったのであろう。日本の明治初期にも同様の現象がみられる。

B) 日本製漢語が入る以前から韓国で何らかのことばがあつて、日本製漢語が入ることによって類義語(同義語)の関係になった語である。これらの漢語は現代韓国語では日本製漢語に代替されるようになる。具体例としては「曜日の名」がある。これについては3で詳しく述べる。

これらの変化をまとめていうなら、日韓においては前者が存在しない語形から同形語へ、後者が異形語から同形語への変化ということになる。

2) 意味への影響

日本製漢語が韓国に入ることによって、語形と共に意味にも変化をもたらした。その結果、当然日韓において同語形が存在することになるが、次の2つの変化が考えられる。

A) 中国の古典的意味から日本製意味へ

B) 韓国独自の意味から日本製意味へ

日韓においては A) が同義語から同義語へ、B) が異義語から同義語へ、という変化であるといえる。

A) 中国の古典的意味から日本製意味へ

「社会 社長 分析 文明 理学…」など。日本において中国の古典の意味で使われた語で近代以降日本で新しい意味を附加した語である。日本製漢語(意味)を受け入れた韓国語においても同様である。例えば、

「分析」は字面どおり<分ける>の意味として、『国民小学読本』(1895)に

綠葉이表面에서炭酸瓦斯를吸取하고分析하야炭酸만먹고酸素을더러空中에내면사람이그酸素를다시吸取하나니라(木の葉は(葉の)表面で炭酸ガスを吸収し、それを分けて炭素のみを取り入れるが酸素は空中に出す。人は再びその酸素を吸収することになる)『国民小学読本 第30課氣息(息)』

とある。

これは日本でも同様に<分ける>の意味が散見される。『袖珍』(1862)に「Abruption 打

崩スコト、破ルコト、分析スルコト」とある。「Analysis」に対する訳語として、日本は『和英語林集成 再版』(1872)、韓国は Gale(1911)に記述が見られる。

次に「理学」も同様である。『明治のことば辞典』(1986)によると、

元来、宋学・朱子学を指したが、幕末から英語 philosophy の訳語となり、やがて physics の訳語となった。今日は「理学部」「理学博士」などのように複合語に用いられ自然科学の意味である

と意味変化が説明されている。

韓国語の「理学」についても上に述べた意味変化の説明がそのまま当てはまるだろう。

「理学」についての詳細な考察は齊藤毅(1978)や鈴木修次(1981)を参照されたい。ここでは韓国の例だけをあげる。

Underwood(1890)

Philosophy 학 학문 리.(学、学問、理) Natural— 성리지학 격물궁리 천성지학(性理之学、格物究理、天性之学)

Gale(1897)

理学 Philosophy. See 도학(道学)

道学 The study of rules ; ethics

Gale(1911)

理学 Physics; natural philosophy and Science

理学者 A physicist; a person versed in natural philosophy; philosopher

朝鮮語辞典(1938)

理学 ①「生理学」과 같음(と同じ)②「物理学」과 같음(と同じ)③自然科学과 같음(と同じ)④哲学과 같음(と同じ)

とあるとおりである。ちなみに、Gale(1911)に「哲学、哲学者、哲学的、哲学博士、哲学士」とあるように、「哲学」の語が、朝鮮語辞典(1938)に「科学」の語が見えるようになる³。

3 各語の考察

2で日本製漢語による変化について大まかに見た。本稿では日本製漢語が入った時期に日本製漢語とは異なった語形や意味を持っていた語を中心に考察する。取り上げた語は任意に選んだ。これらが日本製漢語かどうかについては先行研究の指摘により、ほぼ日本製漢語と認めてよいと思われる⁴。語形の変化の B) の例として「曜日の名」を、意味の変化の B)

の例として「発明」をあげる。また、語形と意味と共に変化が見られる「発行・出発」の例をあげることにする。

3.1 曜日の名称

『独立新聞』(1896)を見ると「月曜日」「火曜日」「木曜日」「土曜日」「日曜日」の5語が見られ、ほとんどの曜日の名が輸入されたと思われる。

ところが Underwood(1890)を見ると、韓英の部の最後に「DAY OF THE WEEK」の項目があり、次のようになっている。

Sunday----레배날(礼拝の日)	Monday----레배일(礼拝一)
Tuesday----레배이(礼拝二)	Wednesday----레배삼(礼拝三)
Thursday----레배사(礼拝四)	Friday----레배오(礼拝五)
Saturday----레배륙(礼拝六)	

また、同書の英韓の部の訳語をみると、「Monday」から「Friday」までは上と同じ訳語がされているが、「Saturday」と「Sunday」は上の訳語の他に

Saturday	적은공일	쇼공일(小さい空日、小空日)
Sunday	주일	료일 공일(主日、曜日、空日)

とある。

Gale(1897)には「月曜日」から「日曜日」まで載っているが、その他にも「火曜日」を「레배잇홀(礼拝の二日)」、「日曜日」を「레배일(礼拝日)」とするなど、「레배(礼拝)～」のような言い方がある程度定着していたようである。「레배(礼拝)」を

Worship(Christian)、A Week

下線は筆者、以下同

としていることからそれが分かる。

「Sunday」は<休みの日>でもあるので、「空日」の訳語が与えられており、「主日」はキリスト教における<日曜日>でもある。Gale(1897)に

공일	空日 ; A holiday
주일	主日 ; The Lord's Day Sunday

とある。ちなみに Scoot(1891)では「Holiday」の訳語が次のようになっている。

Holiday : 명일 절일 명절(名日、節日、名節)

このような曜日の名や「Holiday」の訳語などはどこで生まれて、韓国語に入ったのだら

うか。まず中国の例を見よう。

日本の英和辞書に影響を与えた『英華字典』(Lobscheid、1866～1869、以下『英華』)を見てみると、次のようである。

Sunday——礼拝日、主之日	Monday----礼拝一、瞻礼二
Tuesday----礼拝二、瞻礼三	Wednesday----礼拝三
Thursday----礼拝四	Friday----礼拝五日、瞻礼日
Saturday----礼拝六、瞻礼日	
Week----一个礼拝、七日節、週七日之期、七日来復	

とある。これらの語はMorrison(1815～23)の『五車韻府』に

主日 the lord's day、or the chief day ;is used for Sunday by the catholics in china.

礼拝日 the day of the rites of worship ; the sabbath of the christians and mahomedans.

の語が見られ、『英華韻府曆階』(1844)になって「礼拝～」が見えはじめる⁵。

このように中国の文献には、曜日の名として「礼拝～」や「主日」など、韓国語のそれと同形の語がある。また、下のように「holiday」の訳語としての「節日」がある。韓国ではこれらの名称を中国から受け入れたと考えられる⁶。

holiday、a festival、節日(『英華』(1866～1869))

「名日」「名節」は漢籍(『漢語大詞典』)や英華字典類(Morrison～Baller)にもないので韓国製漢語かもしれない。

一方、日本では『和英語林集成 初版』(1867、以下『和英 初』)に現代の曜日の名はみられず、「英和の部」にも「Sunday」のみ載っている。

Sunday Ansoku-nichi、yasumibi、dontaku

また、「Week」に対する訳語も「Mawari」⁷とあり、韓国でみられた「礼拝」は載っていない。宗教の日としての<日曜日>の意味である「主日」はなく、「安息日」がみられる。そして、休みの日としての韓国でみられた「空日」は見られない。

Holiday Matszribi、kiujitsz、iwaibi

ところで、蘭学の系統を受け継いだ『英和对訳袖珍辞書』(1862、以下『袖珍』)には、「月曜日」から「日曜日」までである⁸。そして、「主日」「空日」はやはり『和英 初』と同様に

見られない。これ以降の辞書も同様である。(『和英語林集成再版』(1872)『英和字彙』(1873)『和英語林集成三版』(1886)『言海』(1889~91)『日本大辞典』(1892~93))

以上のことから考えると、韓国の曜日の名は日本製漢語が入る以前に、中国製漢語を受け入れていた。一方、日本の場合は中国製漢語を受け入れず、いち早く日本で造語したことになる。韓国は日本製漢語を受け入れることによって曜日の名が中国製漢語から日本製漢語へと変わるのである。

一方、休みの日(「Holiday」としての訳語は、当時の日本語には見られない「空日」(中国からか)「名節」・「名日」(韓国製か)があり、宗教における「主日」がある。これらは日本からの影響を受けず、現代韓国語にいたってもよく使われている。

つまり、曜日の名は日韓異形漢語であったが、日本製漢語を受け入れることによって同形漢語になった。一方、「Holiday」の訳語などは日本語から受け入れられておらず、結果、日韓において異形語が存在することになった。

3.2 「発行」と「出発」

「出発」は日本製漢語で『独』に例が見られる。

아라샤 황데 즉위 레에 참례 하라고 제물포 에서 출발하다(ロシアの皇帝即位式に参列するためにジェムルポ(地名)から出発する)『独 4/7』

ところが、当時韓国語には<出発>の意味として「発行」「発程」があり、「出発」が入ることによってこれらの語と類義語の関係になる。Gale(1897)に

발행하다、発行 To set out to depart to start

발정하다、発程 To set out to take the road

とある。

一方、日本では、「出発」は、日本の蘭学資料や『袖珍』(1862)には見られず、『英和字彙』(1873)に見える(英華・華英に「出発」の例は見られない)。

Starting 躍起

Departure 離去(ハナレ) 出発(シュツタツ) 死去(シキョ) 棄絶(ウチステ) 退去(シリゾキ)

()は底本にあるルビ

「発程」の初出例としては『日国』に幕末の『玉石志林』(1855)があげられている。

加必丹の船、発程せし後

また、他に『西国立志編』(中村正直訳、1871)にもあることから幕末・明治期に使われていた

ようである。日本でも韓国と同様に「出発」「発程」が当時使われていたことがわかった。

一方、「発行」はどうであったらうか。『袖珍』(1862)を見てみると、「発行」が一例あり、「Utterer」の訳語として字義どおりの広い意味で用いたようである。

Utterer 発言スル人、発行スル人、賣ル人.

Issue 成果、終り、功蹟、出来バへ、流出、子孫、打膿.

Publication 普ク知ラセルコト、知ラセ、出版.

『和英 初』(1867)の「発行」は

To be prevalent, most general, fashionable. *Korori ga -shimasz*、Cholera is prevalent. *Hadena nari ga -szru*、Gay clothing is fashionable.

Syn. HAYARU.

とあるように、韓国の「発行」と違って、〈はやる・流行する〉の意味として使われている。これから考えると〈出発〉の意味として韓国には日本製漢語「出発」が入る以前に「発行」「発程」があった。一方、日本は江戸末期に「発程」、明治初期に「出発」の例が見られ、「発行」は韓国のそれとは異なった意味も持っていたようである⁹。

〈出発〉の意味の「発行」「発程」は中国の漢籍に例があることから「発程」は日韓ともに、「発行」は韓国のみ中国から受け入れたことになる。つまり、当時日韓における〈出発〉の意味の語などは、「出発」「発程」は同形同義語、「発行」は同形異義語であったことがわかる。

ところで、「発行」は日本製漢語の〈issue・publish〉の意味を受け入れた例が、『独』の5月16日に

제물포서 발행 하는 일본 신문 조선신보에 조선 정부 대신을 말하되(ジェムルポ(地名)で発行する日本新聞「朝鮮新報」に朝鮮政府の大臣について述べて)

のように見られる。『独』(1896)の後、辞書においては Gale の再版(1911)に在来の意味〈start・depart〉と日本製意味〈publish〉とが一緒に記述されるようになる。

발행 発行 Publication. Setting out ; Starting.

발행인 発行人 One set out on a journey. A publisher

そして、日本の方も『和英 三』(1886、〈publish〉の意味は同書再版から)に〈はやる〉の意味と〈publish〉の意味がともに見られる(『言海』(1889~91)も同様)。

—suru, To become prevalent; come into fashion; to inaugurate; to set agoing; to issue, put into circulation, publish : *Korera ga —shimasu* , Cholera is prevalent. *Hade-na nari ga —suru* , gay clothing has become fashionable, *shi-hei wo —* , to issue paper money.

Syn. HAYARU, OKONAWARU, IDASU

このように当時韓国に日本製漢語「出発」と、〈publish〉の意味の「発行」が入ることによって、〈start・depart〉の意味を担う語は「発行」から「出発」へと変わり、「発行」は〈publish〉の意味になる。ちなみに中国の華英辞典類では〈wholesale〉の意味で使われており¹⁰、K. Hemeling(1916)に〈issue〉の意味で記述されている「発行」が見られるようになる。

3.3 「発明」

現代語において「発明」という語は日韓ともに〈Invention〉の意味で使われていることは言うまでもない。「発明」はもともと中国の漢籍に見られる語で〈開き明らかにすること〉(『史記』『漢書』など)の意味である。ところが、日本においては独自に意味変化をし、近世には〈賢い、利口〉などの意味で広く使われたようである。その一方、韓国も意味変化により、〈言い訳をする〉の意味になっていた。

韓国の〈いいわけ〉の例は、『交隣須知』(19世紀前半)に「発明」に対して次のような日本語が訳せられている。

イ、ワケスルコトバハゴサリマセンヲ [巻3、33ウ]

当時、「発明」が〈いいわけ〉の意味として一般的に使われたようであるが、やがて次のような日本製意味が見られるようになる。

①客이더딘緣由를發明하면(お客が遅れた理由を発明したら)『国』(第25課)

②有益한冊은一世一代의사람을益할뿐만아니오子孫後世를益하미甚大하야有益한發明을하는事業와갓고(よい本は当世代の人ばかりでなく後世の子孫にも役に立つことで、有益な発明をすることと同じで)『国』(第8課 書籍)

③理學大家갈리레오라하는사람이搖鍾를發明한以來로사람마다輕便한時計를가지게도얏시니(理学の大家であるガリレイという人が振り子を発明して以来、人は軽い時計を持つようになり)『国』(第10課 時計)

④우두법 처음으로 발명한 세사국 의원(牛痘法をはじめて発明したセサクッ医員)

『独』(5/20)

①は<いいわけ>の意味で韓国の在来意味、②③④の意味は当時の韓国において新しい意味である。②③が<Invention>、④は<Discovery>の意味として使われている。④の例は現代語では「発明」よりは「発見」の方がふさわしい例だろう。

ところで、日本でも『袖珍』(1862)では「発明」に対して、<Invention、Discovery>が訳語となっていることがわかる。

Contrivance・Discovery・Experience・Invention・Overture

そして、その他にも

『和英通語』(1872)

Discovery

『法律字彙』(1890)

Discovery・Invention

林洞海『窠篤児薬性論』(1856)「此薬ノ効アルヲ偶然ニ発明シ」

『西国立志編』(1870)「影相(シャシン)ヲ金版ニ留ルコトヲ発明セシ達礙爾(タゲール)」

()は底本にあるルビ

とあるとおりである¹¹。当時、日本では、訳語の「発明」にゆれがあつて、<Invention>は「発明」、<Discovery>は「発見」のように定着して行く。このように訳語のゆれが韓国でも同様に見られることは興味深い。日本製意味としての「発明」は韓国の辞書では G. H. Jones(1914)が早い¹²。

Invention 신발명(新発明)

Discover 발견하다(発見) : 발명하다(発明) : 사출하다(査出)

()は底本にある文字列

一方、中国の華英字典類では次のような意味になり、韓中において同義であったかどうかはよく分からないが、関連はあろう。

Morrison(1815~23)の『五車韻府』

発明 To illustrate ; to bring to light ; to explain ; the name of a bird.

Medhurst(1842~43)

発明 To display clearly.

S. Wells Williams(1889)

発明 breaking of the dawn ; to explain, to make clear.

『新爾雅』(1903)

為人所未為之事。或造出世所未有之物。謂之發明。物雖已成。人皆未知。我獨頭之。
謂之發見

このように『新爾雅』(1903)に日本製漢語の意味が見られるようになる。

4 おわりに

以上のように各語について語形や意味変化の様子を見てきた。これを簡単にまとめると次のようになる。

・曜日の名

韓国は曜日の名として中国製漢語「礼拝一・二・三…礼拝日」を受け入れて使っていたが、日本製漢語が入ることによって「月・火・水…日曜日」になった。一方、日本の場合は中国から「礼拝～」を受け入れず、早くから独自に日本製漢語を使っていたようである。

・「発行」と「出発」

韓国は「発行」が<出発>の意味であったが、日本製意味<Issue・Publish>に変化する。<出発>の意味は日本から入った「出発」が担うようになった。一方、日本の「発行」も<はやる・流行する>の意味から<Issue・Publish>に変化する。

・「發明」

「發明」は、日韓でそれぞれ<賢い・利口><言い訳>などの意味として使われていたが、<Invention・Discovery>の意味になる。やがて<Invention>は「發明」に、<Discovery>は「發見」に定着した。

要約すると、近代日韓漢語において曜日の名は、その語形を中国から受け入れたのかどうかという受け入れの有無によって、「発行」「發明」は、日韓とももしくは一方のみが独自の意味変化をしたことによって、日韓異形・異義漢語であった。日本製漢語を受け入れることによって、「曜日の名」「出発」は日韓同形漢語になり、「発行」「發明」は日韓同形同義漢語になったのである。

今回は特に当時日本製漢語とは異なった語形・意味があった語について考察したが、2で述べたように日本製漢語が流入する以前に存在しなかった語について中国語とともに調査する必要がある。つまり、中国は一時期多くの日本製漢語を受け入れながらも独自の訳語を作って代替させたのに対し、韓国は日本製漢語をそのまま受け入れて現代語にいたる。このように両者の違いを考慮して調査を進めることによって現代日韓中におけ

る同形同義一致率の差異の一因がよりはっきりすると思う。また、今回調査したような事例をこれから多く調査し、近代以降三国間における日本製漢語に対する受容態度を明らかにしたい。これからの課題とする。

注

¹ 現代同形漢語が多い理由として李漢燮(1984、109-110)は次の理由を上げており、①②が主な理由であるとする。

- ①日本語と韓国語がそれぞれ中国から同じ語を受け入れたからである。
- ②韓国語が日本語から漢字表記語を受け入れたからである(近代以降 1876 年)。
- ③日本語が韓国語から漢字表記語を受け入れたからである。
- ④偶然の一致。

現代の日韓同形(同義)の比率について代表的な先行文献を下の表にあげる。その一致率はかなり高いことが分かる。

表

先行文献	対象とした資料	語数	日韓・日中・韓中の同形語	同形語のうち同義語
李漢燮(1984)	『日本語教育基本語彙七種比較対照表』	2604 語	日韓 2450 (94. 08)	2418 (98. 69)
曹喜澈(1991)	『漢字音読語の日中対応』	1882 語	日韓 1659(88. 15)	1573 (94. 81)
			日中 1364(72. 47)	1215 (89. 07)
宋永彬(1993)	日韓の小学校全課程の国語教科書	3280	2759 (84. 01)	?
塩田(1999)	言語学用語 日本：『新言語学辞典 改訂増補版』1975 研究社 韓国：『改訂増補版 言語学辞典』1987 博英社 中国：『英漢語言学詞彙』1979 新華書店北京発行所	日韓中共通立項項目 674	日韓 465 (69. 0)	日韓 465 (100)
			日中 123 (18. 2)	日中 123 (100)
			韓中 112 (16. 6)	韓中 112 (100)
塩田(1999)	現代用語 日本：『現代用語の基礎知識 1993』1993 自由国民社 韓国：『93 現代知識情報事典』1992 中央日報社	日韓共通立項項目 672	578 (86. 0)	578 (100)

表について一言説明しておく。宋永彬(1993)の同義語の「？」は当論文において同義語の調査がされていないこと。また、塩田(1999)の同形語と同義語との数値が同じなのは、「日韓中共通立項項目」によるため、英語の見出し語に対する各国の訳語が当てられているので意味は同じになる、ということである。

² 本稿で用いる述語の定義は以下のとおりである。

- ・漢語：狭い意味では、「中国語に起源を持つ語」をさすが、ここでは「漢字で表記され、また表記できる語」という広義で用いる。韓国語においては漢字を訓読する方法がないので、漢字で表記されるのは漢語(字音語)になる。ただし、音訳語である「亜米利加」「瓦斯」などは除く。
- ・日本製漢語：日本で造語された漢語を意味する。特に幕末・明治以降西洋の文明・文物が入り、それに対する概念を翻訳する際に日本人が新しく造語したり、中国の古典語に新しい意味を付与したりした語。
- ・日本製意味：「日本製漢語」が有する意味を指す。
- ・在来語形(意味)：日韓漢語において「日本製漢語(意味)」が生じる以前の語形(意味)。中国からの漢語の受け入れによって生じた語形や意味がある一方で、日韓独自の変化によって生じた語形や意味もある。
- ・中国古典の意味：中国古典における漢語の意味で、『大漢和辞典』(大修館)における意味記述による。

³ 用例をあげなかった「社会」「社長」「文明」は、韓国においてGale(1911)にそれぞれ「Society」「The president of company」「Civilization」の意味になる。

⁴ 「曜日」の名称：李漢燮(1993)杉本つとむ(1998)、「発行」「出発」：張元哉(1998)、「発明」：高名凱他(1984)李漢燮(1993)沈国威(1994)などで指摘されている。

⁵ 同書に「Sunday」、「Tuesday」、「Thursday」の見出し語は載っていない。

⁶ 「空日」は『大漢和辞典』(大修館)に「御用のない日」の意味として『福惠全書』の例をあげており、その関連性はあると思われるが、現段階での出自判断は保留とする。

⁷ 「Week」の訳語は同書の二版に「isshū」、三版に「isshūkan」が増加されている。

⁸ 杉本つとむ(1998)によると、蘭和辞典の『訳鍵』(1810)に「zondag 日曜日」が見られる。

⁹ ここで「発行」の意味が韓国のそれと異なるというのは、辞書に限ってのことである。松井(1981)によると、『野戦要務』(1865)に「其発行ノ時刻ハ黎明ノ頃正ニ敵ノ前軍ニ達スルガ如ク定メ」とあり、「発行」が<出発>の意味として使われている。幕末・明治初期に漢学の隆盛により漢語が氾濫したこともあって、一時期のみ使われた語かもしれない。

¹⁰ Ernest John Eitel(1877)、S. Wells Williams(1889)、Herbert Allen Giles(1892)、F. W. Baller(1900)に同じ意味が記してある。

¹¹ 用例は飛田良文他(1986)からの孫引きである。

¹² 曹喜澈(1991)に「韓国の辞書で近代の意味での「発明」がはじめて出てくるのは、1936年の『朝鮮語辞典』(文世栄編)からである」とあるが、調べた限りでは1914年が早い。

参考文献

斎藤毅(1978)『明治のことば 東から西への架け橋』講談社

佐藤亨(1980)『近世語彙の歴史的研究』桜風社

——(1983)『近世語彙の研究』桜風社

——(1986)『幕末・明治初期語彙の研究』桜風社

塩田雄大(1999)「日本・韓国・中国の専門用語—日本語とはどのくらい似ているか—」『国文学解釈と鑑賞』64-1 至文堂

志部昭平(1987)「朝鮮語における漢字語の位置」『日本語学』VOL6-2、87-88、明治書院

——(1989)「漢字の用い方(韓国語との対照)」『講座日本語と日本語教育』9 明治書院

杉本つとむ(1998)『杉本つとむ著作選集2 近代日本語の成立と発展』八坂書房

鈴木修次(1981)『文明のことば』文化評論出版社

宋永彬(1993)『分類語彙表』による日韓基本語彙の対照『早稲田大学大学院文学研究科紀要 文学・芸術編』別冊20

曹喜澈(1991)「日韓同形漢語の語義・用法の相違」近代語研究会『日本近代語研究』1 ひつじ書房

張元哉(1998)「近代日韓語彙交流の研究—1895・6年における同形漢語を中心に—」東京都立大学大学院修士学位論文

沈国威(1994)『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容—』笠間書院

鄭政泳(1993)「国語漢字語の単語形成研究」忠北大学校博士学位論文 ソウル

飛田良文他(1986)『明治のことば辞典』東京堂出版

松井利彦(1981)「幕末漢語の意味」『広島女子大学文学部紀要』16

森岡健二(1991)『改訂 近代語の成立—明治期語彙編—』明治書院

李漢燮(1984)「日韓同形の漢字表記語彙」『日本語学』VOL3-8 明治書院

——(1993)「現代韓国語における日本製漢語」『日本語学』VOL12-7 明治書院

高名凱他(1984)『漢語外来詞詞典』上海辞書出版社(沈国威(1994)に所収)

調査資料

○日本資料

『日本国語大辞典』(小学館、1990)

『郵便報知新聞』(1877~1878)国立国語研究所(1959)『国立国語研究所報告 15 明治初期の新聞の用語』秀英出版。

『学問ノスゝメ』(福沢諭吉、1872)進藤咲子編(1992)『学問ノスゝメ本文と索引』笠間書院

『英和对訳袖珍辞書』(堀達之助、1862)杉本つとむ(1981)『江戸時代翻訳日本語辞典』早稲田出版会

『和英語林集成』(ヘボン、初版 1867)飛田良文他編(1996)『和英語林集成初版訳語索引』笠間書院

『和英語林集成』(ヘボン、再版 1872)、『和英語林集成』(ヘボン、三版 1886)山口豊編(1997)『和英語林集成 第三版 訳語総索引』武蔵野書院

『哲学字彙』(井上哲次郎、1881)飛田良文編(1979)『哲学字彙 訳語総索引』笠間書院

『漢英対照いろは辞典』(高橋五郎、1888)、『言海』(大槻文彦、1889~91)、『日本大辞書』(山田美妙、1892~93)

○韓国資料

南廣祐編(1997)『教学 古語辞典』教学社ソウル

劉昌惇(1985)『李朝語辞典』延世大学校出版部ソウル

韓国精神文化研究院(1995)『17世紀国語辞典上・下』太学社ソウル

『交隣須知』(19世紀前半)、京都大学文学部国語学国文学研究室編(1966)京都大学国文学会、福島邦道他編(1990)『明治十四年版 交隣須知 本文及び総索引』笠間書院

『独立新聞』(1896)『独立新聞 1~6』(1976)韓国文化開発社

『国民小学読本』(1895)韓国学文献研究所編(1977)『韓国開化期教科書叢書 1』亜細亜文化社 ソウル

『韓佛字典』(リーデル、1880)、『韓英字典』(H. G. Underwood、1890)、『English-Corean Dictionary』(J. Scott、1891)、『韓英字典』(J. S. Gale、初版 1897)、『Korean words and phrases』(J. W. Hodge、第二版 1902)、『日韓いろは辞典』(柿原治郎、1907)、『韓英字典』(J. S. Gale、再版 1911)、『An English-Korean Dictionary』(G. H. Jones、1914)、『朝鮮語辞典』(朝鮮総督府、

1920)、『朝鮮語辞典』(文世榮編、1938)、『우리말 큰사전』(ハングル学会、1992)、『동아 새국어사전』(東亜出版社、1997)

○中国資料

『大漢和辞典』(大修館、1955)、『漢語大詞典』(漢語大詞典出版社、1986~94)

『A Dictionary of the Chinese Language in Three Parts(第1部 字典 第2部 華英(五車韻府) 第3部 英華)』(Robert Morrison、1815~23)、『Chinese and English Dictionary』(Walter Henry Medhurst、1842~1843)

『英華韻府歷階』(S. Wells Williams、1844)、『英華字典』(Wilhelm Lobscheid、1866~69) 『英華萃林韻府』(Justus Doolittle、1872)、『A Chinese Dictionary in the Cantonese Dialect』(Ernest John Eitel、1877)、『華英字典集成』(Kwong Ki Chiu、1887)、『A Syllabic Dictionary of the Chinese Language』(S. Wells Williams、1889)、『A Chinese-English Dictionary』(Herbert Allen Giles、1892)、『An Analytical Chinese-English Dictionary Compiled for the China Inland Mission』(F. W. Baller、1900)、『新爾雅』(汪向榮・葉瀾共編、1903)、『English Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language(官話) and handbook for translations、including Scientific、 Technical、 Modern、 and Documentary Terms. 2vol』(K. Hemeling(赫美玲)、1916)

(チャン・ウォンゼ 東京都立大学大学院生)